

2 2 耐寒性苗木の現地適用実験

担当者 青森営林署造林係 田中完吾

開発期間 昭和42年～56年

経費

開発目的

寒害防止対策のため、耐寒性在来品種適用の可否および耐寒性苗木の養苗上の問題点について検討する。

開発計画

46年度と同一につき省略

実施経過

1. 調査の年次計画にもとずき42年度プロット設定

(1) 植付 42年6月8日～42年6月15日

(2) 下刈 43年～46年 毎年1回

(3) 樹高測定 43年以降毎年

開発結果

1. 伸長量の比較

(1) 年度別伸長量

(単位 cm)

年度	産地	麁ヶ沢	遠野	雫石	古川	青森(大)	青森(普)
43		17.5	20.5	20.3	17.7	22.1	20.6
44		16.4	22.5	13.8	11.4	18.1	15.4
45		24.2	28.5	21.1	22.7	24.4	24.2
46		23.7	34.7	17.8	16.8	27.7	23.6
47		14.8	16.6	16.0	16.3	16.2	14.5
計		96.6	122.8	89.0	84.9	108.5	98.3

(2) 分散分析

産地 プロット	鯉ヶ沢	遠野	霰石	古川	青森(大)	青森(普)
1	106.6	116.1	79.8	88.9	102.4	102.3
2	86.5	128.7	98.2	80.7	114.7	94.3

変動因	自由度	平方和	平均平方	F ₀
全体	11	2,475.27		
処理	5	1,883.34	376.67	3.20
プロット	1	4.09	4.09	
誤差	5	587.84	117.57	

有意差は認められない

$$F(5, 5 : 0.05) = 5.05 > F_0$$

2. 枯損木の比較

単位 本

産地 年度	鯉ヶ沢	遠野	霰石	古川	青森(大)	青森(普)
43末	17	8	3	1	6	15
44末	18	9	8	4	8	18
45末	21	14	18	10	11	24
46末	22	14	19	10	11	25
47末	22	14	20	11	11	26

注：各年度秋期における枯損率

3. 植付後4年を経過したが、有意差が認められず、今後継続して調査する見込みである。

評 価

伸長量は植付5年を経過したが、有意差がない。今後5年おき調査に切りかえて調査してゆきたい。